



[刊行にあたって]

日本経済の低迷は、さまざまな業種にその影を落としています。そして、本来は経営という考え方が馴染まない、国民の健康を守る医療分野においても、経営を優先させなければ存続すら難しくなっているという現実があります。それは、歯科界も例外ではありません。

歯科の道を志した以上、多くの歯科医師は開業して地域医療に貢献したいとの思いがあるはずです。そして歯科医院は、新規開業するにしても承継するにしても、継続的に存続する必要があります。つまり、医療従事者としての使命と、経営者として手腕が問われるわけです。

歯科医院を経営的に安定成長させるには、さまざまな場面での**経営判断**が求められます。先輩歯科医師や専門家の意見を仰いだとしても、最終的には院長である先生自身が判断することになります。

そこで、これから開業する歯科医師、開業間もない歯科医院、比較的順調に推移している歯科医院、承継を考えている歯科医院等々、歯科医院の成長過程において、経営者である院長が行わなければならない経営判断（決断）を誤らないための指針を示したいと考え、本書を企画いたしました。

第1章の座談会では、歯科医院がさまざまな成長過程でどんな岐路に立たされるのかを浮き彫りにしました。次の第2章では「こんなときは?」、「こうなったら?」という具体的な“Question”を、「こうするとよい」、「こうすべき」という具体的な“Answer”で応える形式で、すべて見開きとコンパクトにまとめました。

本書が歯科医院における経営判断の最新ガイドとなり、多くの開業医の将来不安を軽減する一助に役立てていただければ幸いです。

2014年1月

渡辺 博